

ご教示願います！ SDGsの取り組み方

Vol.25

2024年現在、IoTや5Gの普及加速、LED照明に代表される省エネについての提案営業、脱炭素社会の実現（カーボンニュートラル）、太陽光発電、蓄電池などエネルギー分野の発展、建築業界における働き方改革など、私達、電材業界が取り組まなければならない社会的・環境的貢献課題は、まさにSDGsの課題そのものです。

しかしながら、「SDGsに取り組みたいが、どのようにして進めていけばよいか分からない」という声を多く頂いたことから、すでにSDGsに取り組まれている会社様へ緊急取材をお願いし、SDGsとは何なのか、取り組みのメリットなどをお伺いし、組合員会社様のSDGs取り組み会社増へと繋げる記事を連載致します。

第25回目の今回は、北海道単組所属の株式会社エミヤホールディングス様を訪問し、三神司代表取締役社長、村井弘幸常務取締役、荊木義一常務取締役に話を伺いました。



左から
荊木義一常務取締役、村井弘幸常務取締役、三神司代表取締役社長

SDGsに取り組む

Ⅱ 経営活動の効率化

ミス・ロスを防ぐ事は 環境改善に繋がる

事務局 SDGsの取り組みを始められたきっかけをご教示頂けますか？

三神社長 SDGsに取り組む前から「エコアクション21」に取り組んでいます。エコアクション21は、ISO14001（環境マネジメントシステム）の中小企業版と言えますが、環境省が策定した日本独自のシステムで、PDCAサイクルを繰り返すことにより、継続的に改善する方法です。

毎年審査を頂いているのですが、他社との相違点としては、弊社ではQCサークル活動として取り組んでいることが挙げられます。QCサークルとは、小集団改善活動の一形態で、メンバー同士がコミュニケーションを取りながら課題や

改善策を共有し、職場内の改善活動を促進する方法です。

この手法はエコアクション21に取り組む前から弊社で行っています。この手法を利用して、自分達で業務のミスを無くし、業務の質を高めていこうと、毎月部署ごとにチーム会議を行い、4月に前期の反省、10月に確認会議を行う活動総評をしています。

QCサークルの目標はミス・ロスの削減による環境負荷低減です。例えば、配送でミスが起きて手配をし直す事になれば、それだけ時間もお金もトラックも動くため、CO₂が増えてしまいます。ミスもロスも防ぐ事は、環境改善に繋がります。具体的には、毎月の活動に対して各部門長がアドバイスし、思い込みや確認不足について二重チェックを行っています。

環境経営活動レポート

毎年約20ページ程度の環境経営活動レポートを作成掲載出来なかった取り組みも多数掲載。ぜひ、閲覧下さい。



この取り組みは、環境経営活動レポートに記載し、審査時に提出して、HP内でも掲載しています。

SDGsが登場してからは、SDGsとエコアクション21が繋がる事が分かり、弊社のSDGsの取り組みの中に盛り込んだという流れです。

村井常務 エコアクション21の審査は3日程かかるため、各事業所を4年に1度回れるようなサイクルにして取り組んでいます。

荊木常務 当時はISOが大きく注目されていましたが、敷居が高かったため、エコアクション21に取り組むことにしま

した。認証制度のため、常に取り組み続ける事が対外的なPRに繋がっていると感じています。

実際、採用活動では、学生さん方から、SDGsの取り組みについて、質問をもらう事も多く、環境への配慮や地域貢献に繋がる活動は、ブランディングに繋がっていると思います。

三神社長 環境経営活動レポートでは、省エネ提案についての記載もあるため、業績にも繋がってきます。

荊木常務 販売実績は営業から報告を毎月上げるようにしていますし、電気代もまとめていますので、続けてきた事

QCサークル



部署ごとにQCサークル会議を行って、ミス・ロスを防いでいます。

で記載パターンが決まり、社員も業務の一部と捉え、スタート時よりは負荷はからなくなつたと思います。

事務局 ありがとうございます。エコアクション21に取り組んでいる組合員会社様は多いので、SDGsの取り組みとして謳える事をこの記事を通して伝えてみたいと思います。

また、環境活動レポートの中には、防災訓練や救急訓練も入っているのが面白いです。玄関にはAEDのマークも貼っており、危機管理が素晴らしいと思います。

三神社長 エコアクション21は、環境だ

放水訓練



毎年、貯水槽を利用した放水訓練や消火訓練を行っています。

けでなく、安全衛生委員会を設置し、法令遵守という項目もあります。

防災訓練は、年に一度、お盆休み直前の暑い時期に行っています。弊社には貯水槽がありますから、消防用のポンプを倉庫から出して繋ぎ、実際に放水訓練を行っています。放水で涼しくなる利点もありますが、消火器には使用期限もありますし、こういう機会に使い方を覚えてもらうよう、確認のためにを行っています。

村井常務 防災訓練は、年に一度は行わないと感覚が鈍ります。毎年継続して行っていくからこそ、万が一に対応出来、役に立つと思っています。また、毎年行う事で習慣になり、抵抗感も薄れるものです。

「ライフサイクルをサポートする」
のは電材も介護も同じ

事務局 HPを拝見しましたら、「福祉用具販売、介護住宅改修、デイサービス等の介護サービスの提供」という項目を発見しました。エミヤライフケアという事業を立ち上げられていますが、ど



介護サービス

電材と共に柱となっている介護事業

ういったきっかけでこの事業を始められようと思われたのでしょうか？

三神社長 2001年頃に取り引のある松下電工が介護事業を始められ、弊社会長が「介護をしないといけない人口が増えてきている。事業として考えてみては？」という一言から、2002年に介護ビジネスに参入した松下電工エイジフリー介護チェーンのフランチャイズとして始める事にしました。

事業としては大きく3つあり、介護用品の販売、介護用品のレンタル、介護用の住宅改修を行っています。介護保険事業者登録も済ませ、現在でも事業を行っています。

村井常務 現在、介護事業は厚別と札幌東に店舗を構え、リハビリ型のデイサービスを行っています。午前と午後に分けて、運動能力改善を中心として行っています。

三神社長 当時、住宅の新築は減少傾向にあり、今後はリフォーム・リニューアルの時代になると言われていた事から、住宅改修という分野で何か連携出来るのではないかとという目論見でしたが、実際に行ってみますと、連携することとは出来ませんでした。

電材と介護は全く違う世界ですが、2020年に、2030年までの長期ビジョンを策定し、「快適な環境づくりのパートナーとして、地域社会に多様な価値を創造します」というミッションを掲げました。その中で電材は「施設・設備のライフサイクルを通じて多様な価値を創造します」、介護では「人のライフサイクルを通じて多様な価値を創造します」という文言を入れました。「ライフサイクルをサポートする」という意味では人も施設も同じ役割を持っています。

荊木常務 介護事業については、まだまだ発展途上です。弊社がホールディング

グス化した理由になるのですが、電材にこだわらず、今後もライフサイクルに関わるものであれば、違う事業を取り入れる事も検討し、グループで完結出来るものを目指していきます。それによって、SDGsの項目も増えていくかもしれません。

三神社長 介護自体がSDGsの目標項目3の「すべての人に健康と福祉を」に当てはまるのですが、これまでの事業を棚卸したら繋がったというこじつけです。

事務局 ありがとうございます。他社様でも「SDGsは何も取り組んでいない」という会社様はあると思いますが、業務の棚卸をするとポンポンと見つかると思います。

三神社長 SDGsの取り組みを考えるにあたり、どの項目にどの取り組みが合うのか適合表を自分で作ってみようと思ったのですが膨大過ぎたため、地銀が行っていた企業向けにSDGs宣言を作るサービスを活用し、聞き取り調査をお願いしてまとめて頂き、低予算で作る事が出来ました。

色々伺ったのですが、11番の「住み続けられるまちづくりを」などは、LED

照明を販売していれば、全日電材連の組合員会社は全て当てはまると思いました。

事務局 仰せの通りだと思います。では次に、HPの中では社会科見学の受け入れもされた事があると思います。

村井常務 コロナ禍前に商業高校から企業訪問のお話を頂いて、社内全てと倉庫内を案内させて頂きました。コロナ禍以降は、継続出来ていませんが、今後もお話があれば、いつでも受け入れたと思います。

三神社長 卸業会社のサンプルとしてご訪問されたようでしたが、どう案内するべきか悩みました。

荊木常務 その時は、会社説明会のような感じで対応しました。ただ、この業界は特殊ですし、次回の受け入れ以降は、年代のレベルに合わせて説明し、楽しく見せる工夫をしていきたいと思っています。

事務局 電工連様の会社様で、工業高校に出前授業をされているお話を伺っていた一方で、社会科見学を受け入れている組合員会社様はあまり伺わなかったの



展示会恒例の訳あり商品販売ブース「もったいないコーナー」

で、電材業界を知って頂く方法の一つとして、学校との関わり方は今後のヒントになるように感じました。

その他の取り組みとして、情報共有頂ける事はございますか？

村井常務 弊社の展示会である「なっとくガッツ展」では、「もったいないコーナー」を設けています。ここでは毎年、お客様の都合や新商品が出た事により行先を無くした旧商品など様々な事情で訳ありとなった商品を特別価格で販売しているのですが、このコーナーがお客様方からかなり好評を得ています。

荊木常務 正直に言いますと、このコー

ナーを始める前は、廃棄していた物もありましたので、再利用という観点で行っています。効率化を目指す上で、こういう商材が出てしまう事はまだまだ反省すべき点ですが。

三神社長 どうしても何らかの事情は起きますので、お金をかけて廃棄するくらいならば…という気持ちです。

村井常務 良く言えば、「もったいないコーナー」は、3R（発生抑制、再利用、再生利用）を推進しているということです。

事務局 お客様にこのコーナーをアテにされ過ぎると困りますが、SDGsの取り組みとしては必要な事と思いました。

社会的に決まっている事はしっかりと行っていないと取り残される

事務局 これまでのお話を伺いますと、三神社長は、一つ一つをしっかりと管理されるお考えで経営をされていると感じました。このようなお考えになったきっかけは何かあるのでしょうか？

三神社長 コンプライアンスという言葉が流行り出してからです。企業の不

祥事がニュースで大きく取り上げられるようになり、社会的に決まっている事はしっかりと行っていないと取り残される気がしていました。「出来る事はしっかりと行う」と思うようになったのはその頃からです。

事務局 今後、SDGsに対しては、どのような方向性を考えておられますか？

三神社長 弊社の場合は、「SDGsに取り組む＝経営活動の効率化」と捉えています。QCサークルはミス・ロスの削減を目標としていますので、効率化とイコールになれば、必ず業績に繋がると思

いますし、取り組み続ける事が企業業績を上げる事に繋がると思っています。商材の売上を伸ばす意味もありますが、慈善活動ではなく、持続可能な開発目標ですから、しっかりと商売に繋がって、続けられる事がSDGsだと思います。

エミヤ様のSDGsの取り組みは、
<https://www.emiya.com/sdgs/>
からご確認下さい。

エミヤ様から伺った SDGsに取り組むポイント

- 1、SDGsに取り組むことは、経営活動の効率化にもなる。
- 2、ミス・ロスを防ぐ事は、環境改善に繋がる。

過去の掲載分は、全日電材連ホームページ「SDGsへの取り組み」にて掲載中。

<https://www.jeda.or.jp/sdgs.html#sdgsNews>

※SDGsに取り組む、取材許可を頂ける会社様がございましたら、全社伺わせて頂きます。全日電材連・事務局・伊達までご連絡下さい。(03-3541-7192)